

中之島フェスティバルタワー・ウエスト
なかのしまフェスティバルタワー・ウエスト



◎建築概要

【所在地】	大阪府北区中之島3丁目2番
【竣工予定】	2017年(平成29年)春
【事業主】	朝日新聞社、竹中工務店
【設計・監理】	日建設計(構造・設備設計協力:竹中工務店)
【施工】	竹中工務店
【階数】	地上41階地下4階
【敷地面積】	約8,400㎡
【延べ面積】	約150,000㎡
【高さ】	約200m
【構造】	S造 SRC造 RC造
【駐車場・駐輪場】	約265台 約200台

LAND MARK



阪神高速上の既存建物解体作業



飛来落下防止のため、自動上昇養生現場の中で工事を行った

ウエストの立地の良さが
工事現場の難題に

ウエストは、主要道路や京阪電鉄地下鉄などが近接している。この立地の良さが工事を難しくした。

特に難しかったのは次の3点である。一つめは阪神高速が敷地内(ビル西側)にあること。高速道路の上部にあった体育館の撤去では、高速リフレッシュ工事で全面ストップする期間のうち5日間を利用。準備を周到に、分刻みの工程で

んだ。一つめは軟弱な地盤。豆腐の中を掘り進むような作業で、京阪・地下鉄の線路への影響を抑えるため、土の動きを止める「地中切梁」を設置した。二つめは落下防止。交通量1日約5万台。人通りも多い。高速道路から2mしか離れていない所もある。飛来落下は事故につながる。100%の防止策をと、特別な足場で囲み、その中で作業した。問題を予測し、対策を立てて進める。厳しい管理が必要な工事だった。



LAND MARK

フェスティバルシティ

Interview



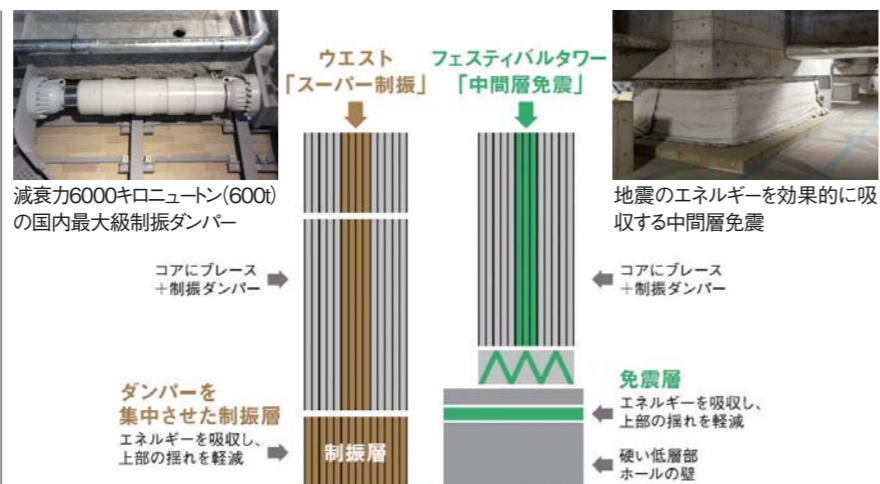
株式会社竹中工務店
大阪本店
総括作業所長
光枝 良さん

ツインタワーの
難工事を乗り越えて

東西タワーの工事を担当させていただき、さまざまな難工事に立ち向かいました。中之島フェスティバルタワーでは音楽ホールの上に高さ200mの中間層免震の超高層ビルを建てるという新しい技術に挑み、無事竣工する事ができました。一方、ウエストでは超軟弱地盤でしかも敷地内の既存建物を阪神高速が通るといふ厳しい課題を抱え、慎重に工事を進めました。特に落下物の事は始終気に掛けていましたので、タワークレーン解体完了時は安堵しました。ようやく誕生するフェスティバルシティが、多くの方に愛される街になることを願っています。

■フェスティバルタワーとウエストの耐震性能

※1 免震構造とは、建物に免震装置のある免震層を設け、地震のエネルギーを吸収。建物に振動を伝えない構造。
※2 制振構造とは、地震のエネルギーを制振ダンパーなどに集中させて、影響を少なくする構造。



東西タワー独自の構造で耐震性能は国内最高水準

両タワーの耐震性能は、阪神大震災級の震度7の大地震でもビル的主要機能が維持される最高ランクのSグレード。南海トラフ巨大地震などで予想される長周期地震動の長時間の揺れにも対応している。

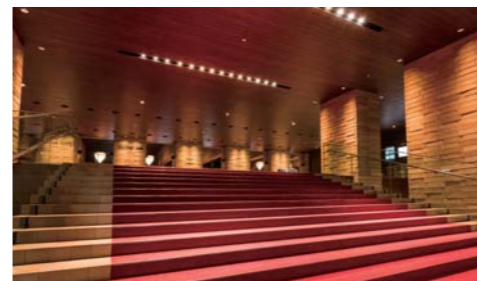
中之島フェスティバルタワーは音楽ホール階とオフィス階に分かれるため「中間層免震」を採用(免震構造)。音楽ホール上部に免震ゴムを配置し、上層階の揺れを軽減させる。

ウエストはスリムな鉄骨造という特徴から「スーパー制振」を採用(制振構造)。地震の力が集中する低層階に高減衰力制振ダンパーを設置し、揺れを吸収させる。

国内最高峰のツインタワー、
2017年春登場!

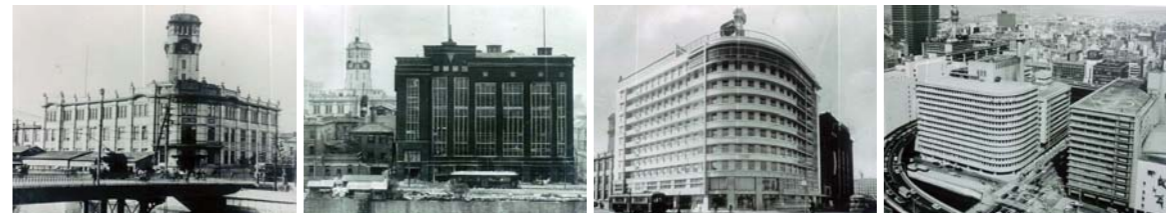
2017年4月、中之島フェスティバルタワー・ウエストが竣工。2012年完成の中之島フェスティバルタワーとともに、高さ200mの東西のツインタワーからなる新しいまち、フェスティバルシティが誕生する。

フェスティバルシティは1万2千人が働くビジネスの重要拠点であり、文化、芸術の発信地でもある。音楽の殿堂「フェスティバルホール」に加え、ウエストには「中之島香雪美術館(仮称)」が入り、音楽美術に親しめる上質な時間を提供する。ウエスト上層階にはヒルトングループの最高級ホテル「コンラッド大阪」が開業し、ショッピングやグルメなどの施設も充実。世界に向けて大阪をさらに盛り上げていくことだろう。



上: 中之島フェスティバルタワーの正面玄関からフェスティバルホールへ
下: メカラス構造(斜めの構造体)でフェスティバルホールの大空間を実現

フェスティバルシティの前身



朝日新聞社(1916~65年) 朝日会館(1926~62年) 大阪朝日ビル(1931~2013年) 朝日新聞ビル(1968~2013年)